日本キリスト教団

長崎銀屋町教会

『週報』

VOL.127　NO.49　　2019年 3月3日

降誕節第１０主日

【2018年度 聖句】「わたしは復活であり、命である」

ヨハネによる福音書11章25節

【2018年度 標語】「キリストの命を生きる」

～定期集会案内～

○主日礼拝	日曜日	午前１０時３０分～
○教会学校　幼小科・中高科	日曜日	午前　９時３０分～
○聖書研究・祈祷会	水曜日	午前１０時３０分～
○夕べの礼拝	第２、第４金曜日	午後　７時００分～
○入門講座	随　時	

〒850-0854　長崎市銀屋町１－５　電話・FAX　095-823-0667
牧師：竹内款一　E-mail：ginya_church@ybb.ne.jp
ホームページ　http://www.giocities.jp/ginyamachchurch/

主日礼拝　次第

2019年3月3日 降誕節第１０主日
司式：奥野多津子　奏楽：直塚朋子

前　奏		奏楽者
○招　詞	イザヤ書58章7～8節	司式者
○讃　詠	Ｉ－５４６	一　同
○交　読	詩編４６編２～１２節	〃
	（旧約：p880）	一　同
○日本基督教団信仰告白（讃美歌添付）		〃
○主の祈り	（讃美歌添付）	〃
○讃 美 歌	７	〃
聖　書		
	ルカによる福音書９章１０～１７節	
	（新約：p121）	司式者
祈　祷		〃
聖歌隊による賛美	21-１９８	
説　教	「分かち合うこと」	
		竹内款一牧師
祈　祷		〃
聖 餐 式		
○讃 美 歌	５４２	一　同
献　金	21-２９８	聖歌隊
○頌　栄	２７	一　同
○祝　祷		竹内款一牧師
後　奏		奏楽者
報　告		司式者

○ の印がついた部分ではお立ちいただきますが、立つことの難しい方は座ったままで結構です。

★「讃詠Ｉ-546」、「頌栄27」「信仰告白」、「主の祈り」などは、座席に備え付けのものもあります。ご覧ください。

★「交読」は、一節ずつ司会者と会衆が、交互に読みます。最後の一節は全員で読みます。

★「讃美歌」は、拡大したものもございます。ご入用の方は受付にお申し出ください。

★「補聴器」、「点字聖書」もございます。ご入用の方は受付までお申出ください。

★礼拝堂2階には、フリースペースがあります。こどもの遊び場、礼拝中の授乳や、くつろぎの場としてお使いいただけます。

★何か分からない事がありましたら、お気軽に受付におたずねください。

◇◇◇　臨時教会総会　公　告　◇◇◇

日時：2019年3月10日(日)礼拝後　　場所：長崎銀屋町教会礼拝堂

議題：①2019年度宣教計画および年間標語・年間聖句に関する件
②2019年度行事計画に関する件　③2019年度会計予算に関する件
④役員選挙に関する件　⑤2019年度九州教区総会議員選出の件
⑥2019年度長崎地区総会議員選出の件　⑦その他

※ やむを得ず欠席される方は、『委任状』を提出してください。

今週の祈り

◎すべての人にキリストの恵みと平和がありますように。
◎被災された方々に慰めと平安を。
日々の歩みが守られますように。
◎礼拝に出席できない方をおぼえて、
主の恵みと平安を。

本日の教会学校

◇幼小科礼拝（9:30～ 記念館1F）
説教・奏楽　大岩しのぶ
◇中高科礼拝（9:30～ 記念館2F）
説教　竹内款一　奏楽　中尾恵美

本日の礼拝当番

森　富美　吉田香奈子　山道一恵

本日の予定

◇ティータイム　◇聖歌隊練習
◇3月定例役員会

次週〈3月10日〉教会学校

◇幼小科・中高科合同
説教　大岩　厚　奏楽　大岩しのぶ
(9:30～　記念館2F)

次週〈3月10日〉主日礼拝

【受難節[レント]第1主日】
説　教：「戸惑いをしりぞけて」
竹内款一牧師
聖　書：ルカによる福音書
4章1～13節
交　読：詩編10編1～18節
讃美歌：56，141，419，頌栄27
【司式】藤澤裕子　【奏楽】中尾恵美
【礼拝当番】
森　富美　大岩　厚　山住けい子

次週〈3月10日〉礼拝後の予定

◇2019年度《臨時教会総会》
※昼食(弁当400円)をいただいた後に行います。
◇臨時役員会(総会後)
※現役員の方々と新しく選出された役員の方々で行います。

今週の予定

◇ 3月6日（水）≪灰の水曜日≫
※受難節、レントに入る。
聖書研究・祈祷会
同日10：30～12：00
ルカ福音書17章20～37節
司会：三矢泰彦

◇ 金曜日 夕べの礼拝
3月8日（金）　午後7時～
「どちらが正しいか」
マタイ福音書18章15～20節
讃美歌：222，484，24

【牧師予定】
・4日(月)…長崎地区教師会
・5日(火)…八幡町保育園誕生日会・聖書研究
・6日(水)…八幡町保育園合同礼拝
・8日(金)…鎮西学院授業

報告

◎『総会資料』(2019年度臨時)をお配りしています。総会当日(3月10日)には持参してください。

◎『教会報ぎんやまち』26号をお配りしています。ご覧ください。

◎「3月予定表」をお配りしています。

◎『週報』、『総会資料』等の発送にご協力ください。

◎《熊本・大分地震救援募金》
ご協力をお願いいたします。
※2018年度累計：104,662円（2/24まで）
感謝をもって報告いたします。

郵便物

◇『キリスト新聞』　◇『教団新報』
◇『九州教区互助通信 あぐろげいとーん』

主イエスは、さまざまな癒しを行った。それは病の患部を癒すだけに留まるのでなく、その人の全体にかかわる。人が生きることそのものが、まったく新しくされるようなことだった。

今回、主イエスのもとに全身重い皮膚病にかかった人が来て、イエスにひれ伏し「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」とやって来た。主イエスは、この人に手を差し伸べてその人に触れ「よろしい清くなれ」と言って、この人を癒す。

かつての古い版の新共同訳は「重い皮膚病」を「らい病」と訳していた。現代では、ハンセン病ともいう。日本ではかつて「らい予防法」があり、ハンセン病（らい病）に罹患した人々が、療養所に入れられ隔離政策がとられた。しかし、実際ハンセン病は感染力が非常に低いものであったと分かるようになった。しかし多くのハンセン病患者は、長い時代隔離され、差別の対象となってしまった。ハンセン病であれ重い皮膚病と包括的に表現される病であれ、とても治癒困難な病を負った人の人生が苛酷なものであったのは、想像に難くない。主イエスは、出会ったこの人に新しい人生を与えたかった。

昔のラビの言葉で、“らい病”については、「死人を起こすぐらいに癒すに難しい病」と語られる面があった。重い皮膚病の場合は、実際にどのような皮膚病か分からないにしても、「死人を起こす」ほどのことが、今ここで起こっていると言わねばならないだろう。

イエスの福音宣教、イエスを通して起こる神の業とは、その人の「全身」に関わることなのだ。今まで人としての自由と尊厳を阻んでいたものを越えて、全く人間の思考の隔壁を突き抜けていく。命を呼び起こすようなことが、主イエスを通して起こっているのである。それは、その人の全体にかかわること、つまり“丸ごと”である。イエスの愛は極めて大きい。

私が学生時代に通っていた教会は、岡山の小さな島にあるハンセン病療養所にある光明園家族教会にお訪ねする機会をもっていた。私も訪れる機会を得て、色々なお話をお聞きした。入所されているある方は、ご自身の歩みを様々にお語りくださった。その方は、療養所に入れられ、そこで同じ病を負った人と結婚された。そして生活を営んでいたのだが、ある時そのお連れ合いが、療養所の外の人（つまり、その病を負った人ではない人）と一緒になりたいと言って出て行ってしまったのだ。その頃には、療養所から出ることが許されていた。私は聞くばかりで、語ってくださった方の身も心も本当に引き裂かれるようなものであったと想像するばかりでした。そのような経験をされて来たその方にとっては、主イエスは本当によりどころであり、共なる方であり、本当の主であるということは、痛いほど伝わって来た。

あれから数十年が経つが、かつて若い私に、ご自身の丸ごとを語ってくださった方のことを思い出す。その方が、相手が何も知らないであろう若者に語ってくださったことは、その方が、ご自身の全身・丸ごとを引き受けて、ご自身の全てを受け入れていることだと思う。そして、この方の丸ごとを受けいれている主イエスがおられるのだと、また思うのである。

聖書があらわす主イエスは、その人の丸ごとを受け止める。そして、その人の中に、神に愛された命を創り出す。

人の命を引き裂くかのようなことや、人が人を貶めてしまう差別は、私たちの中にある。けれどもそれを越えて、主イエスは新たに事をなすのである。人が本当に幸いを享受し、本来の神の愛しみのともなった命として、歩みだすことを主イエスは希望しておられる。

「中風のひとをいやす」（17-26節）とあわせて見ても、その主の力が生きており、人々の中で顕わにされている。生と死、浄と汚れ、罪、これらを超えて主の力が生きている。それを主イエスの中に見る。これは、驚くべきことだと人々は言う。それは、まさにその通りである。けれども、主イエスを通して神はそれをなされるのである。人の中で、神は救いの御業を新たに始める方なのである。

ある時には触れ合いを生まれさせ、ある時には屋根をも突き破り、一方が閉ざされていても、別の道を通って、でもやはり主イエスと出会い、癒し、立ち上がらせ、自由にする。キリストの命にふれることは、実に尊いことである。